



Cisco UCS Power Tool スイートのインストールおよび構成ガイド、リリース 3.0(6)

最終更新：2025 年 10 月 17 日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>



目次

はじめに :

はじめに v

対象読者 v

表記法 v

Cisco UCS の関連ドキュメント vii

マニュアルに関するフィードバック vii

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート viii

第 1 章

概要 1

Cisco UCS PowerTool スイートについて 1

システム要件 1

第 2 章

UCS Power Tool モジュールの取り付けまたはアップグレード 5

Cisco UCS PowerTool スイートのアンインストール 6

Cisco UCS PowerTool スイートのアンインストール 7

第 3 章

Cisco UCS PowerTool スイートの構成 9

Cisco UCS 共通モジュール 9

Cisco UCS のソフトウェア画像の取得 10

Cisco UCS ハードウェアおよびソフトウェア互換性ツールの統合 11



はじめに

この前書きは、次の項で構成されています。

- [対象読者](#) (v ページ)
- [表記法](#) (v ページ)
- [Cisco UCS の関連ドキュメント](#) (vii ページ)
- [マニュアルに関するフィードバック](#) (vii ページ)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカルサポート](#) (viii ページ)

対象読者

このガイドは、次の1つ以上に責任を持つ、専門知識を備えたデータセンター管理者を主な対象にしています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンド、キーワード、およびユーザーが入力するテキストは、太字で表示されます。
イタリック体	文書のタイトル、新規用語、強調する用語、およびユーザーが値を指定する関数は、イタリック体で示しています。

表記法	説明
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。 string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
courier フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山かっこ (<>) で囲んで示しています。
[]	システムプロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。



(注) 「注釈」です。役立つ情報やこのマニュアルに記載されていない参照資料を紹介しています。



ヒント 「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。



注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



ワンポイントアドバイス 「時間の節約に役立つ操作」です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

**警告** 安全上の重要事項

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策に留意してください。各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。

これらの注意事項を保管しておいてください。

Cisco UCS の関連ドキュメント

ドキュメント ロードマップ

詳細については、次のリンクから関連資料を参照できます。

- [Cisco UCS Manager PowerTool リリース 3.x ユーザ ガイド](#)
- [Cisco IMC PowerTool、リリース 3.x ユーザ ガイド](#)
- [Cisco UCS Central PowerTool、リリース 3.x ユーザ ガイド](#)
- [Cisco UCS Documentation Roadmap](#)
- [Cisco UCS C-Series Documentation Roadmap](#)
- [Cisco UCS Central Configuration Guides](#)

その他のマニュアル リソース

B シリーズおよび C シリーズのすべてのドキュメントを含む ISO ファイルは、次の URL から入手できます。 <https://software.cisco.com/download/type.html?mdfid=283853163&flowid=25821> このページで、[Unified Computing System (UCS) Documentation Roadmap Bundle] をクリックします。

ISO ファイルは、ドキュメントのメジャー リリースの後に更新されます。

ドキュメントの更新通知を受け取るには、Twitter の『[Cisco UCS Docs](#)』をフォローしてください。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバック フォームよりご連絡ください。ご協力をよろしく願います。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、サービス要求の提出、および追加情報の収集については、<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html> の『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示し、RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツをデスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。



第 1 章

概要

この章の内容は、次のとおりです。

- [Cisco UCS PowerTool スイートについて \(1 ページ\)](#)
- [システム要件 \(1 ページ\)](#)

Cisco UCS PowerTool スイートについて

Cisco UCS PowerTool スイートは、Cisco UCS Manager、Cisco UCS、Cisco IMC のあらゆる側面を自動化する一連の PowerShell モジュールです。また、サーバやネットワーク、ストレージ、ハイパーバイザ管理の自動化もサポートします。Cisco IMC PowerTool スイートは、既存の IT 管理プロセスやツールと容易に統合できます。PowerTool コマンドレットは、Cisco UCS 管理情報ツリー (MIT) で機能します。これらのコマンドレットを使えば、MIT の UCS マネージドオブジェクト(MOs)での読み取り、作成、変更、削除が実行できます。



-
- (注) リリース2.5(2) より前は、PowerTool モジュールは [cisco.com](https://www.cisco.com) に掲載されていました。
- リリース 2.5(2) 以降、PowerTool モジュールは <https://www.powershellgallery.com/profiles/Cisco> で入手できます。
-

システム要件

システムが次の要件を満たしていることを確認してください。

- Windows PowerShell 5.1 または PowerShell 6.x 以降
- .NET Framework 4.7.1 以降または .NET Core 2.0 以降

Cisco UCS Manager

Cisco UCS Manager PowerTool は、次の Cisco UCS Manager リリースと互換性があります。

- リリース 4.2
- リリース 4.1
- Release 4.0
- リリース 3.2
- リリース 3.1
- リリース 3.0
- リリース 2.5
- リリース 2.2
- リリース 2.1
- リリース 2.0

Cisco UCS C シリーズ サーバ

Cisco IMC PowerTool は、次の Cisco UCS C シリーズ リリースと互換性があります。

- リリース 4.2
- リリース 4.1
- Release 4.0
- リリース 3.1
- リリース 3.0
- リリース 2.0
- リリース 1.5

Cisco UCS E-Series Servers

Cisco IMC PowerTool は、次の Cisco UCS E シリーズ リリースと互換性があります。

- リリース 2.2(1) 以降

Cisco UCS Central

Cisco UCS Central PowerTool は、次の Cisco UCS Central リリースと互換性があります。

- リリース 2.0
- リリース 1.5
- リリース 1.4
- リリース 1.3

- リリース 1.2

インストール要件



重要 上位バージョンにアップグレードする前に、下位バージョンのモジュールをアンインストールすることをお勧めします。

ロードされた PowerTool モジュールで動作中の PowerShell のインスタンスは閉じてください。



第 2 章

UCS Power Tool モジュールの取り付けまたはアップグレード

PowerShellから Install-Module コマンドレットを使用して、PowerTool の個々のPowerShellモジュールをインストールできます。たとえば、PowerShellギャラリーから Cisco.UCSManager モジュールをインストールし、このモジュールを使用して UCSM で操作を実行できます。

新しいバージョンをインストールする前に、古いバージョンのPowerToolのPowerShellモジュールをアンインストールしてください。PowerTool モジュールをアンインストールするには、Uninstall-Module コマンドレットを使用します。例：

```
Uninstall-Module -Name Cisco.UCSManager
```



- (注)
- リリース2.5(2) より前は、PowerTool モジュールは [cisco.com](https://www.cisco.com) に掲載されていました。リリース 2.5(2) 以降、PowerTool モジュールは <https://www.powershellgallery.com/profiles/Cisco> で入手できます。
 - Cisco.UCS.DesiredStateConfiguration モジュールは、3.xリリースではサポートされていません。

PowerShell ギャラリーから PowerTool の PowerShell モジュールをインストールするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Windowsでは 管理者として実行、それ以外では **sudo** を使用してPowerShellを起動します。

ステップ 2 Install-Module コマンドレットを使用して、PowerShellギャラリーから次のPowerToolのPowerShellモジュールをインストールします。

- Cisco.IMC
- Cisco.UCSManager

- Cisco.UCSCentral

詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

```
Install-Module -Name Cisco.UCSManager
```

PowerTool モジュール パッケージは、次から入手できます。

<https://www.powershellgallery.com/profiles/Cisco>

-
- [Cisco UCS PowerTool スイートのアンインストール \(6 ページ\)](#)
 - [Cisco UCS PowerTool スイートのアンインストール \(7 ページ\)](#)

Cisco UCS PowerTool スイートのアンインストール

PowerTool の PowerShell モジュールをアンインストールするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Windows で **Run as Administrator** を使用するか、Windows 以外で `sudo` を使用して、PowerShell を起動します。

ステップ 2 `Uninstall-Module` コマンドレットを使用して、PowerTool の次の PowerShell モジュールをアンインストールします。

- Cisco.IMC
- Cisco.UCSManager
- Cisco.UCSCentral
- Cisco.UCS.Common

例： `Uninstall-Module Cisco.UCSManager`

(注)

最初に依存モジュールをアンインストールすることはできません。たとえば、Cisco.UCSManager、Cisco.UCSCentral および Cisco.IMC はモジュール Cisco.UCS.Common に依存します。

そのため、Cisco.UCS.Common をアンインストールする前に、まずこれらのモジュールをアンインストールする必要があります。

詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

モジュールのアンインストール

すべてのモジュールがアンインストールされたかどうかを確認するには、`Get-InstalledModule` コマンドレットを使用します。

Cisco UCS PowerTool スイートのアンインストール

PowerTool の PowerShell モジュールをアンインストールするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Windows で **Run as Administrator** を使用するか、Windows 以外で `sudo` を使用して、PowerShell を起動します。

ステップ 2 `Uninstall-Module` コマンドレットを使用して、PowerTool の次の PowerShell モジュールをアンインストールします。

- Cisco.IMC
- Cisco.UCSManager
- Cisco.UCSCentral
- Cisco.UCS.Common

例 : `Uninstall-Module Cisco.UCSManager`

(注)

最初に依存モジュールをアンインストールすることはできません。たとえば、Cisco.UCSManager、Cisco.UCSCentral および Cisco.IMC はモジュール Cisco.UCS.Common に依存します。

そのため、Cisco.UCS.Common をアンインストールする前に、まずこれらのモジュールをアンインストールする必要があります。

詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

モジュールのアンインストール

すべてのモジュールがアンインストールされたかどうかを確認するには、`Get-InstalledModule` コマンドレットを使用します。



第 3 章

Cisco UCS PowerTool スイートの構成

この章の内容は、次のとおりです。

- [Cisco UCS 共通モジュール \(9 ページ\)](#)
- [Cisco UCS のソフトウェア画像の取得 \(10 ページ\)](#)
- [Cisco UCS ハードウェアおよびソフトウェア互換性ツールの統合 \(11 ページ\)](#)

Cisco UCS 共通モジュール

Cisco UCS 共通モジュールには、すべての Cisco UCS モジュールに共通の機能やアクションのためのコマンドレットが含まれています。コマンドレットは、Cisco UCS Manager、Cisco IMC と Cisco UCS PowerTool の以前のリリースで使用できる重複コマンドレットに取って代わるものです。**Retained Cmdlet** 列のコマンドレットは維持されており、3つの PowerTool モジュールすべてで使用できます。

維持されているコマンドレット	Cisco Central で削除されたコマンドレット	Cisco IMC で削除されたコマンドレット
Get-UcsPowerToolCommunity	Get-UcsCentralPowerToolCommunity	Get-ImcPowerToolCommunity
Get-UcsPowerToolConfiguration	Get-UcsCentralPowerToolConfiguration	Get-ImcPowerToolConfiguration
Set-UcsPowerToolConfiguration	Set-UcsCentralPowerToolConfiguration	Set-ImcPowerToolConfiguration
Get-UcsPSSession	Get-UcsCentralPSSession	Get-ImcPSSession
Export-UcsPSSession	Export-UcsCentralPSSession	Export-ImcPSSession

スクリプトのこのリリースから削除されたコマンドレットを使用する場合は、**Retained Cmdlet** 列のコマンドレットを使用してください。

Cisco UCS のソフトウェア画像の取得

次のコマンドレットは、Cisco.com から Cisco UCS Manager、Cisco UCS Central、Cisco IMC サーバの使用可能なドライバまたはファームウェア画像を取得するために使用できます。

Get-UcsSoftwareImageList

構文

```
Get-UcsSoftwareImageList -APIKey <UserAPIKey>
[-Category <string>] [-Type <string>] [-Model <string>] [-AllReleases]
[-Proxy <WebProxy>] [-Ucs <BaseHandle[]>] [<CommonParameters>]

Get-UcsSoftwareImageList -APIKey <UserAPIKey>
-MdfId <uint> -SoftwareId <uint> [-AllReleases] [-Proxy <WebProxy>]
[-Ucs <BaseHandle[]>] [<CommonParameters>]
```



(注) *APIKey* は、ユーザのハードウェア プロファイルで定義されている API キーを指定します。

AllReleases スイッチ パラメータは UCS PowerTool スイート 2.0(2) 以降から利用できます。

-AllRelease スイッチ パラメータを指定すると、選択したデバイス タイプに合わせて Cisco.com で利用可能なすべての画像をリストします。

-Version パラメータは、UCS PowerTool スイート リリース 2.0(1)用のみで有効です。

Get-UcsSoftwareImage

構文

```
Get-UcsSoftwareImage -SoftwareImage <ImageDetails> -Path <string> [-EulaAccepted] [-Xml]
[<CommonParameters>]
```

例

```
Get-UcsSoftwareImageList
Get-UcsSoftwareImageList -Category Default
Get-UcsSoftwareImageList -Category ModularServer
Get-UcsSoftwareImageList -Category ModularServer -Type Firmware
Get-UcsSoftwareImageList -Category ModularServer -Type Drivers
Get-UcsSoftwareImageList -Type Firmware
Get-UcsSoftwareImageList -Type Drivers
$image= Get-UcsSoftwareImageList
$image[0] | Get-UcsSoftwareImage -Path "C:\Images" -EulaAccepted -verbose
Get-UcsSoftwareImageList | Get-UcsSoftwareImage -Path "C:\Images" -verbose
```

Cisco.com から取得したソフトウェア画像を使用していた次のコマンドレットは、本リリース以降サポートされなくなります。

- Get-UcsCcolImageList
- Get-UcsCcolImage

Cisco UCS ハードウェアおよびソフトウェア互換性ツールの統合

Cisco UCS Hardware and Software Compatibility List (HCL) ツールには、シスコまたはシスコのパートナー、またはその両方によってテストされ、検証された UCS コンポーネントと設定の相互運用性情報が記載されています。

UCS PowerTool スイートのリリース 2.1.1 以降、HCL ツールとやり取りするためのカスタムコマンドレットが追加されます。この機能では、UCS ブレードまたはラック サーバからハードウェア プロファイルを作成し、HCL ツールをアップロードできます。また、アップロードされたハードウェア プロファイルを選択して、HCL ツールからファームウェアまたはドライバのバージョンの推奨されるバージョンを取得できます。

Cisco UCS に接続します

コマンドレットを実行する前に、以下を使用して Cisco UCS に接続する必要があります。

```
C:\> $cred = Get-Credential
C:\> $ucs = Connect-Ucs -Name <<IP Address>> -Credential $cred
```

Get UcsOsVendor

Get UcsOsVendor コマンドレットは HCL ツールから、オペレーティング システムのベンダーコードと名前を取得するために使用します。

構文

```
Get-UcsOsVendor [-Id <string>] [-Proxy <WebProxy>] [<CommonParameters>]
```

詳細な説明

プロパティ	説明	必須
Id	OsVendor ID を指定します。	False
Proxy	HCL api との通信に使用する Web プロキシを指定します。	False
コマンド パラメーター	このコマンドレットは、次の共通パラメータをサポートしています:-冗長、-デバッグ、-ErrorAction-ErrorVariable、-OutBuffer、および -OutVariable。	

例

```
C:\> $osVendor = Get-UcsOsVendor
C:\> $OSVendor
```

```
T_ID ID OSVENDOR
---- -- -
2    0 Citrix
3    1 Microsoft
6    2 SuSE
4    3 Oracle
5    4 Red Hat
8    5 VMware
7    7 Ubuntu
1    8 CentOS
```

Get UcsOperatingSystem

Get UcsOperatingSystem コマンドレットを使用して、選択したベンダーのサポートされているすべてのオペレーティングシステムを取得します。

構文

```
Parameter Set: Vendor
Get-UcsOperatingSystem -OsVendor <OsVendor> [-Proxy <WebProxy>] [<CommonParameters>]

Parameter Set: Id
Get-UcsOperatingSystem -OsVendorTreeId <string> [-Proxy <WebProxy>] [<CommonParameters>]
```

詳細な説明

プロパティ	説明	必須
OsVendor	OsVendor オブジェクトを指定します。	True
OsVendorTreeId	OsVendor のツリー id を指定します。	True
Proxy	HCL api との通信に使用する Web プロキシを指定します。	False
コマンド パラメーター	このコマンドレットは、次の共通パラメータをサポートしています:-冗長、-デバッグ、-ErrorAction-ErrorVariable、-OutBuffer、および -OutVariable。	

例

次の例では、Microsoft OSベンダーの詳細が **\$osVendor[1]** として渡されます。

```
C:\> $osVersion = Get-UcsOperatingSystem -OsVendor $osVendor[1]
```

```
C:\> $osVersion
```

```
T_ID ID OSVERSION
---- -- -
39   141 Windows Server 2008 R2 SP1
```

```

41 72 Windows Server 2012
38 338 Windows Server 2008 R2
42 118 Windows Server 2012 R2
40 175 Windows Server 2008 SP2
44 810 Windows Server 2019
43 601 Windows Server 2016

```

新しい UcsHardwareProfile

新規 UcsHardwareProfile コマンドレットは、選択したサーバからのハードウェアプロファイルの作成に使用されます。このコマンドレットを使用して作成ハードウェアプロファイルは、追加 UcsHardwareProfile コマンドレットを使用して、HCL ツールにアップロードできます。このコマンドレットは、パイプライン入力として ComputeBlade、ComputeRackUnit、ComputeServerNode、および ServiceProfile のタイプの管理対象オブジェクトを受け取ります。デフォルトでは、コマンドレットは、サーバのシリアル番号を収集します。シリアル番号を収集するコマンドレットしたくない場合は、**-NoSerialNumber** スイッチ パラメータを使用します。

構文

```

New-UcsHardwareProfile [-NamePrefix <string>] [-NoSerialNumber] -ManagedObject
<ManagedObject>
-OsVendorCode <string> -OsVersionCode <string> [-Ucs <BaseHandle[]>] [<CommonParameters>]
New-UcsHardwareProfile -Name <string> [-NoPostFix] [-NoSerialNumber] -ManagedObject
<ManagedObject> -OsVendorCode <string> -OsVersionCode <string> [-Ucs <BaseHandle[]>]
[<CommonParameters>]

```

詳細な説明

プロパティ	説明	必須
名前	ハードウェア プロファイルの名前を指定します。	True
NamePrefix	ハードウェア プロファイルの名前を指定します。	False
パス	ハードウェア プロファイルの JSON ファイルがあるパスを指定します。	True
LiteralPath	ハードウェア プロファイルの JSON ファイルがあるパスを指定します。	True
NoPostFix	コマンドレットはハードウェア プロファイル名に POSTFIX 文字列をアタッチしないことを指定します。	False

プロパティ	説明	必須
ManagedObject	管理対象オブジェクトを指定します。パラメータとして、またはパイプラインから、関連付けられている ServiceProfile またはブレード または RackUnit または ServerNode を渡すことができます。	True
NoSerialNumber	スイッチのパラメータは、ハードウェア プロファイル内のシリアル番号をキャプチャしないコマンドレットを指示します。	False
OsVendorCode	GetUcsOsVendor コマンドレットを使用して、オペレーティングシステムのベンダーコードを指定します。	True
OsVersionCode	GetUcsOperatingSystem コマンドレットを使用して、オペレーティングシステムのコードを指定します。	True
Ucs	ucs 処理またはハンドルを指定します。	False
コマンドパラメーター	このコマンドレットは、次の共通パラメータをサポートしています:-冗長、-デバッグ、-ErrorAction-ErrorVariable、-OutBuffer、および -OutVariable。	

例

```
C:\> $managedObject = Get-UcsManagedObject -Dn "sys/rack-unit-1"
```

```
C:\> $hardwareProfile = New-UcsHardwareProfile -Name "Test-HardwareProfile"
           -OsVendorCode $osVendor[1].ID -OsVersionCode $osVersion[1].ID
           -ManagedObject $managedObject
```

```
C:\> $hardwareProfile | ConvertTo-Json -Depth 100 | Out-File C:\hardwareProfile.json
```

Add-UcsHardwareProfile

Add-UcsHardwareProfile コマンドレットは HCL ツールにハードウェア プロファイルを上ロードするために使用します。Cisco.com の資格情報と New-UcsHardwareProfile コマンドレットを使用して作成されたハードウェアプロファイルオブジェクトを指定します。指定したアカウントの複数のハードウェアプロファイルを保存することができます。HCL ツールへのハードウェアプロファイルのアップロードの入力として、JSON ファイルを指定することもできます。これらのハードウェアプロファイルは、アダプターの推奨されるドライバとファームウェアバージョンに関する情報を取得する後で使用することができます。

構文

```
Add-UcsHardwareProfile -APIKey <UserAPIKey>
-HardwareProfile <CiscoHardwareProfile>
[-Proxy <WebProxy>] [-Xml] [<CommonParameters>]
```

```
Add-UcsHardwareProfile -APIKey <UserAPIKey>
-Path <string> [-Proxy <WebProxy>]
[-Xml] [<CommonParameters>]
```

```
Add-UcsHardwareProfile -APIKey <UserAPIKey>
-LiteralPath <string> [-Proxy <WebProxy>] [-Xml]
[<CommonParameters>]
```

詳細な説明

プロパティ	説明	必須
HardwareProfile	New-UcsHardwareProfile コマンドレットを使用して作成されたハードウェアプロファイルオブジェクトを指定します。	True
Proxy	HCL api との通信に使用する Web プロキシを指定します。	False
APIKey	ユーザのハードウェアプロファイルで定義されている API キーを指定します。	True
パス	ハードウェアプロファイルの JSON ファイルがあるパスを指定します。	True
LiteralPath	ハードウェアプロファイルの JSON ファイルがあるパスを指定します。	True

プロパティ	説明	必須
コマンド パラメーター	このコマンドレットは、次の共通パラメータをサポートしています:-冗長、-デバッグ、-ErrorAction-ErrorVariable、-OutBuffer、および -OutVariable。	

例

```
C:\> $result = Add-UcsHardwareProfile -APIKey <UserAPIKey> -Path C:\hardwareProfile.json

C:\> $result

CreationDate : 2019-06-20T06:37:07+00:00
LastModified : 2019-06-20T06:37:07+00:00
CecId        :
Id           : 9463
Name         : Test-HardwareProfile_0
UcsServer    : Cisco.Ucs.Core.CiscoUcsServer
```

Get UcsHardwareProfile

Get UcsHardwareProfile コマンドレットを使用して、特定の cisco.com の資格情報に対して HCL ツールに存在するすべてのハードウェア プロファイルを取得します。特定のハードウェア プロファイルを取得するには、オプションの名前または ID パラメータを使用できます。

構文

```
Parameter Set: Default
Get-UcsHardwareProfile -APIKey <UserAPIKey> [-Proxy <WebProxy>] [<CommonParameters>]

Parameter Set: Name
Get-UcsHardwareProfile -APIKey <UserAPIKey> -Name <string> [-Proxy <WebProxy>]
 [<CommonParameters>]

Parameter Set: Id
Get-UcsHardwareProfile -APIKey <UserAPIKey> -Id <string> [-Proxy <WebProxy>]
 [<CommonParameters>]
```

詳細な説明

プロパティ	説明	必須
名前	ハードウェア プロファイルの名前を指定します。	True
Id	ハードウェア プロファイルの名前を指定します。	True
Proxy	HCL api との通信に使用する Web プロキシを指定します。	False

プロパティ	説明	必須
APIKey	ユーザのハードウェア プロファイルで定義されている API キーを指定します。	True
コマンド パラメーター	このコマンドレットは、次の共通パラメータをサポートしています:-冗長、-デバッグ、-ErrorAction-ErrorVariable、-OutBuffer、および -OutVariable。	

例

```
C:\> $getHardwareProfile = Get-UcsHardwareProfile -APIKey <UserAPIKey> -Name "Test-HardwareProfile_0"
```

```
C:\> $getHardwareProfile
```

```
CreationDate : 2019-06-20T06:37:07+00:00
LastModified : 2019-06-20T06:37:07+00:00
CecId       :
Id          : 9463
Name       : Test-HardwareProfile_0
UcsServer  : Cisco.Ucs.Core.CiscoUcsServer
```

Remove-UcsHardwareProfile

Remove-UcsHardwareProfile コマンドレットは HCL ツールから、ハードウェア プロファイルを削除するために使用します。

構文

```
Remove-UcsHardwareProfile -APIKey <UserAPIKey> -HardwareProfile <CiscoHardwareProfile> [-Proxy <WebProxy>] [<CommonParameters>]
Remove-UcsHardwareProfile -APIKey <UserAPIKey> -Id <string> [-Proxy <WebProxy>] [<CommonParameters>]
Remove-UcsHardwareProfile -APIKey <UserAPIKey> -Name <string> [-Proxy <WebProxy>] [<CommonParameters>]
```

詳細な説明

プロパティ	説明	必須
名前	ハードウェア プロファイルの名前を指定します。	True
Id	ハードウェア プロファイルの名前を指定します。	True
Proxy	HCL api との通信に使用する Web プロキシを指定します。	False

プロパティ	説明	必須
APIKey	ユーザのハードウェア プロファイルで定義されている API キーを指定します。	True
コマンド パラメーター	このコマンドレットは、次の共通パラメータをサポートしています:-冗長、-デバッグ、-ErrorAction-ErrorVariable、-OutBuffer、および -OutVariable。	

例

```
C:\> Remove-UcsHardwareProfile -APIKey <UserAPIKey> -Name "Test-HardwareProfile_0"
Hardware Profile with Name Test-HardwareProfile_0 removed successfully
```

Invoke-UcsHclUtility

Invoke UcsHclUtility コマンドレットは HCL ツールで利用可能なハードウェア プロファイルの推奨されるドライバとファームウェアのバージョンのアダプターの取得に使用されます。

構文

```
Invoke-UcsHclUtility -APIKey <UserAPIKey> -HardwareProfile <CiscoHardwareProfile>
[-Proxy <WebProxy>] [-Tree] [-Advisories] [-AdvisoryType <string>] [<CommonParameters>]
Invoke-UcsHclUtility -APIKey <UserAPIKey> -Name <string> [-Proxy <WebProxy>] [-Tree]
[-Advisories] [-AdvisoryType <string>] [<CommonParameters>]
Invoke-UcsHclUtility -APIKey <UserAPIKey> -Id <string> [-Proxy <WebProxy>] [-Tree]
[-Advisories] [-AdvisoryType <string>] [<CommonParameters>]
```

詳細な説明

プロパティ	説明	必須
名前	ハードウェア プロファイルの名前を指定します。	True
Advisories	ハードウェア プロファイルの一部である、コンポーネントまたはアダプターに対して公開されるアドバイザリを表示するためのスイッチ パラメータを指定します。	False
AdvisoriesType	フェッチされるアドバイザリのタイプを指定します。	False

プロパティ	説明	必須
ツリー	指定されている場合、コマンドレットはツリー ビューで詳細な出力を表示します。 (注) -Treeを使用する場合、パイプラインのコマンドレットの出力を使用できません	False
HardwareProfile	ハードウェアプロファイルオブジェクトを指定します。	True
Proxy	HCL api との通信に使用する Web プロキシを指定します。	False
APIKey	ユーザのハードウェア プロファイルで定義されている API キーを指定します。	True
コマンドパラメーター	このコマンドレットは、次の共通パラメータをサポートしています:-冗長、-デバッグ、-ErrorAction-ErrorVariable、-OutBuffer、および -OutVariable。	

例

```
C:\> $hclResult = Invoke-UcsHclUtility -APIKey <UserAPIKey> -Name "Test-HardwareProfile_0"

C:\> $hclResult

CompatibilityProfiles Advisories
-----
{810}

C:\> $hclResult.CompatibilityProfiles

Version           : 4.0(1)
DownloadUrl       :
https://software.cisco.com/download/release.html?mdfid=283862063&flowid=25886&softwareid=283655681
InstallationDocUrl :
http://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-manager/products-installation-guides-list.html
DriverIsoDownload :
https://software.cisco.com/download/home/283862063/type/283853158/release/4.0(1)
HardwareTypes     : Cisco.Ucs.Core.HardwareTypes
Component         : {ST1000NM0045, HUSMR7680BDP301, Micron_5100_MTFDDAV240TCB}
OsVersion         : Windows Server 2019
OsVendor          : Microsoft
OsVersionId       : 810
```

```
OsVendorId      : 1
Notes           : {96 : Requires minimum FW version 4.1.2d}
```

Get-UcsHclAdvisoryTypes

構文

サーバモデルとそのコンポーネントのアドバイザリを表示するには、**Get-UcsHclAdvisoryTypes** コマンドレットを使用します。

```
Get-UcsHclAdvisoryTypes -APIKey <UserAPIKey>
[-Proxy <WebProxy>][<CommonParameters>]
```

プロパティ	説明	必須
APIKey	ユーザのハードウェア プロファイルで定義されている API キーを指定します。	True
Proxy	HCL API との通信に使用する Web プロキシを指定します。	False
コマンドパラメーター	このコマンドレットは、次の共通パラメータをサポートしています:-冗長、-デバッグ、-ErrorAction-ErrorVariable、-OutBuffer、および -OutVariable。	

例

```
C:\> $advisoryResult = Get-UcsHclAdvisoryTypes -APIKey <UserAPIKey>
```

```
C:\> $advisoryResult
EOL Advisory
Field Notice
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。